

井上育英会 会誌に関するアンケート分析

問 1

- ・年齢 20代から70代までほぼ同数の方が回答（20代・30代は1.5-2.0倍）
多世代に広く読まれている
- ・業務区分：会社関係 45%、学校関係 17%が過半以上を占める
- ・支部：東京支部 48%、近畿支部 14%を占める

問 2

- ・読み方：すぐに読む人と後ほど読む人 合計 88% ⇒アンケート回答者は会誌への関心が高く、従って読む人が大半の結果となっている。
- ・読後の保存：保存している人（切り抜き含む）41%、廃棄している人 59%、⇒保存比率が割と高い＝保存の価値を有する

問 3

- ・会誌の役割：1位に選定＝会の活動状況（52%）、多様な知とキャリアの共有（22%）
2位に選定＝会員の状況把握（33%）、多様な知とキャリアの共有（25%）
⇒総合的な順位としては、①会の活動状況 ②多様な知とキャリアの共有 ③会員の状況把握
- ・期待への対応：非常にそう思う人とそう思う人 合計 88%
⇒現状、概ね期待に応えている、残りの10%の方々の意見要望に「改善の糸口」を見出す！

【期待に沿っていない理由】（10%の方の意見等）

- ・情報を一方向的に共有しているのみで、**コミュニケーション**はできていない。例えば、ある会員が何かを意見し、それに対して別な会員が次の号でその意見に応答するなど、非同期的な**議論の場**や**知識を共有する場**になってもいいし、各支部から数名程度集まって**対談**をするなども良いと思う。（20代）
- ・イベントの感想文が多く、それはそれで楽しくて良いのですが、当該イベントに参加していない人も興味を持って読めるコンテンツにするためには、もう少し**学びの共有**に**重点**を置いても良いのではと思いま

す。例えば、月例会や大例会ではスピーカーの方がご自身のキャリアや仕事内容についてレクチャーをしてくださっており、学生も、新たな学びのある場所だと思って参加していたと思います。折角の井上育英会の学びのカルチャーを活かした会報誌にしてもよいのでは、と思います。（20代）

- ・ 今の**学生とのコミュニケーション**、フォローがしたい（30代）
- ・ 諸先輩がたの寄稿、学生の**留学や研究に関する寄稿**は、大変興味深く読ませていただいています。が、会員間の交流で主にレクリエーション関係の報告は、あまり読んでいません。（30代）
- ・ 会合に出られない方と学生をつなぐツールにはなっていないように感じるから（30代）
- ・ 各支部の活動内容など、内輪の話が多い（50代）
- ・ 量が多すぎる（50代）
- ・ メルマガや SNS などでも対応可能ではないか、むしろ、**OB 同士の交流**に力点を置いて欲しい。また**学生との交流**も（50代）
- ・ 内容がバラエティ過ぎて、おもしろい記事が埋もれてしまっている（60代）
- ・ 会員に対する情報が少ない。桜菱**会員の情報**が少ないように思う（70代・80代以上）
- ・ 会の**活動状況の報告**がマンネリ化している。（80代以上）

⇒①コミュニケーションや交流の場としての双方向性を有することが期待されている。

②知の情報共有や学びの場としての機能が期待されている。

③会の活動報告などのマンネリ化や（近況報告など）会員情報の少なさが指摘されている。

問 4

・記事の満足度評価

【定例論文記事】⇒知の共有や学びの場としての寄稿文が満足度が高く、会員近況や海外留学生便りなど会員情報も満足度が高い。

- ・ 1 位：冒頭寄稿（地方からのメッセージ） 60%
- ・ 2 位：特別寄稿 59%
- ・ 3 位：会員近況（北から南から） 57%
- ・ 4 位：留学生海外便り 56%
- ・ 5 位：支部活動報告 55%

【月別論文記事】⇒新奨学生紹介や卒業祝賀行事報告など奨学生に関する情報が満足度高く、初夏例会報告や秋季例会報告など講演内容紹介もあり満足度が高い。

- ・ 1 位：新奨学生紹介 57%
- ・ 2 位：初夏例会報告 54%
- ・ 3 位：卒業祝賀行事 54%

4位：秋季例会報告	54%
5位：新年会報告・新体制報告	53%

【記事を読まない・満足していない理由】

⇒知の共有と学びの場、当会の目標に即したテーマに関する双方向コミュニケーションの場としての会誌を期待するとともに、会員の個人的な個性・見識・感性等の表出を期待する意見と個人的な文章（寄稿や近況）は控えて本部支部の活動を中心に据えるべきと相反する意見もある。

- ①人材育成という本来の目標に向けた活動や研究、学び合いの機運づくり・場づくりの内容になっていない
- ②自分に関係しないこと、自分の関心がないこと、等には興味なし
- ③新しい情報や学生さん方の個性を表出する記事を期待する。個人のお便りも期待する。
- ④本部活動や支部活動予定や報告および事業報告などの組織的な動きや取組みに関する情報提供を期待する、一方、個人ベースの記事（寄稿や近況など）は不要。

・「自己満足的な記事が多い」「定型文法的な報告記事が多い」「教育機関関係者、官公庁関係者偏重の雰囲気を感じる」「人材の育成という本来の目標である活動の実践や研究、学び合いが起こればいい気運が見られない」などがその理由である。（40代）

・定例の行事の報告については、よりコンパクトに必要な情報に絞って掲載することを検討してもよいと思う。（30代）

・関係する事項がないと考えられるため。（70代）関心があまりないことが多い。（20代）時間をとって読もうとあまりなっていないです（20代）知らない方々の記事は読まないことが多い（70代）

・新しい情報があったり、学生さんの個性が伝わってくるものではないのであまり読んでいないと思います。とはいえ、活動報告はやはり会誌として合ったほうが良いと思いますし、では報告をどう面白くしていくか？と考えるとなかなか難しいように思いますので、満足している、と回答させていただきました。（30代）

・「個人からの便り」のスペースを増やすと情報が多岐になりよりよくなるのでは？（50代）

・冒頭記事－地方在住者を第一に考えるのは良いが、話題によっては地方人でなくてもよい

・会員近況－情報として不要

・全国奨学生交流会・同期会近況報告－ここまで丁寧な報告は、会員としては不要です

・初夏例会・秋季例会報告－スライド抜きの発表原稿は文字化してもわかりにくい（60代）

- ・冒頭記事 – 自分の好みの分野に限る。文章は段落・行変等適切にお願いします。
- ・留学生海外便り – 個人の文章は不要と思う。
- ・支部活動報告 – もっとこの部分を厚くしてほしい。
- ・特別寄稿 – 個人の文章は不要と思う。
- ・本部活動予定 – ここがメインになるべき。
- ・事業報告 – ここを重厚かつ丁寧にしてほしい。 (60代)

・ページ数：ちょうど良い $223/265 = 85\%$

・文字の大きさ等：見やすい+普通 $249/265 = 94\%$

・見づらい等の理由：文字が小さい、行間が狭い、記事の文字数が多すぎる、横書きにしてはどうか

⇒読まない方の理由についても後述の改善要望等と併せて、検討課題として取り上げ、広報委員会にて検討する。

問 5

・郵便による提供方法：見直すべきである $95/265 = 36\%$

・メール配信や HP からの閲覧について：現状維持・現状変更・併用案の 3 つの意見がよせられており、主な記述は以下の通り。

【郵送と電子化の併用案】

・個人的には、会員限定ページに（過去の分を含めてすべて）PDF を置いていただき、最新版の発行時にメールでご連絡いただくほうがよいです。全員がそのような希望をお持ちではないと思うので、郵送希望者には郵送もするということがいかがでしょうか。（40代）

・私個人は電子化してメール配信して下さった方が有難いのですが、このような対応にはいろいろな意見が出てくることは学会事務などを通してよく承知しています。なので「見直すべきだ」とまでは思いません。電子化に応じる方は電子化し、郵送を希望する人には郵送する、という対応が可能ならそれがよいかとは思いますが。（40代）

・希望されない方には紙媒体での提供を停止できるようにしたほうがよいと思います。または紙媒体での提供は希望される方だけでいいと思います。（40代）

・予算との兼ね合いですが、紙媒体である必要性は薄くなってきていると思います。ただ紙だから読む、と言う利点もあるので難しいところです。（50代）

- ・郵便と電子化の両方があると助かります。(40代)
- ・郵送事務コストの軽減になり、かつ住所が移動した場合などにも特段の対応がいないことから、積極的に進めるべきだと思います。紙面についてもセキュリティを気にする内容ではないため。ただし、紙での購読を希望された方だけに、郵送すればよいと思います(オプトアウト方式)。(30代)
- ・保存を目的とすれば、紙媒体は有効であり、郵送となる。
一方、掲載量や読める環境の柔軟性の観点からは、電磁情報を前提とした電子メールやweb掲載が有効と考える。(50代)
- ・費用面で考えれば、オンラインでのPDF配信や、ブログのようにテキスト掲載する方が良いように思えます。一方で、郵送で届くことがいわゆるダイレクトメールのように作用し、結果として年会費や寄付金の額に影響しているのであれば、会の収入のための必要経費とも思えます。どちらの方がメリットが大きいか、定量的に比較した上で判断が必要かと思います。(20代)
- ・個人的には海外にいるので郵便よりは歓迎する。ただし、紙がいいという方がいるのであれば、あるいはそのために少なくないコストが必要なのであれば今のままでもよいとおもう。(30代)
- ・財政面のことを考えると、将来的に郵便の利用を止めることも必要となると思います。その場合を考え、希望者にはメールでの配信やHPからの閲覧に変更することもあってよいのではないのでしょうか。
(50代)
- ・郵便のほうが見やすい上、手に取ったらすぐ見られるという利点がある(郵便配信を止めたら見なくなるかもしれない)ため、郵便による提供を続けて欲しい。ただし合わせてメールでの配信やHPからの閲覧を行うことは、過去のものを見るという観点では良いと考える。(30代)

【現状維持(郵送案)】

- ・メールで長文を配信すると読むのが疲れると思います。また、HPからの閲覧に切り替えるとアクセスする手間が発生するので、読まなくなる方が増えると思います。(40代)
- ・メール、HPでもいいと思うが、見なくなるかも知れない。(60代)
- ・あとで読もう、と思ってそのまま忘れて読まないかもしれません。(20代)
- ・紙で来た方が楽しいです(20代)
- ・毎日、大量のメールが来るため、メールで配信された場合は、大量のメールの中に埋もれてしまう可能性が高いです。HPでの閲覧は、後回しになる可能性が高いです。(60代)
- ・"アナログ媒体の良さがあり継続のメリットがある。電子媒体の併用も利便性が高い。経費面で郵送が困難な場合、移行もやむを得ないだろうが、私は読まなくなると思う。会の求心力低下が懸念され

る。”（40代）

・ペーパーレスという意味ではメリットがあると思いますが、メールは、一度開封すると、読まないまま他のメールに埋もれて忘れてしまいがちですし、HPでも思い出してページを開くことをしない気がします。紙で送られて来た方が、「あっ、また送られて来たな」と思ってしばらくは普段目につくところにとって置いておくので、わずかですが気が向いたときに開いてみれます。（30代）

・郵送の方が、短時間で内容の把握が可能で助かります。（30代）

・毎日、大量のメールが来るため、メールで配信された場合は、大量のメールの中に埋もれてしまう可能性が高いです。HPでの閲覧は、後回しになる可能性が高いです。（60代）

・メールやHPでの閲覧でも全く問題ないのですが、届いてすぐにチェックできないメールは、数日後には未開封のメールの山に埋もれてしまい開封されることがなくなるので、郵便の方が（週末など）落ちてから後で開く、ということがしやすいように思います。（20代）

・ネットで受け取り・閲覧をするよりは、郵送で会誌を受け取ることによって、会に所属している意識や繋がりをより感じるような気がする。（20代）

・郵便で配達された時に見る気になる。HPのようになると自分から見には行かないだろう（80代以上）

【現状変更（電子化案）】

・紙の配信は余程の必然性がない限り廃止し、パスワードが必要なリンク配信にすべきと思う。理由は問3-2に記載の通り。例えば優位な人材を育成し続けるというようなことが目的だった場合、現在の会誌内容や紙媒体のデメリット（印刷費、郵送費、個人情報保護など）を考えると、少々の改善で財団資源の優先用途になるとはまず思えない。（40代）

・ペーパーレスを進めるうえでも、電子媒体（メール、HP）にしていただけると助かります。（検索性もできるようになっていれば、過去の資産の活用もできると思います）（50代）

・自分の環境としては電子媒体による配信・閲覧のほうが利便性が高いです。（50代）

・個人情報の保護を十分に行ったうえで、時代に即したメディアを使用すべき。（SNSなども含めて）（40代）

・現在海外に居住しており、帰国した際によく読んでいます。バックナンバーをオンラインで見れるようにしておくと、より読みやすくなると思います。私の所属学会だと、月報誌である天文月報 (<http://www.asj.or.jp/geppou/contents/index.html>) などのようなものが例になると思います。（30代）

・電子化を進めても良いと思う。メールやPDF添付形式であればいつでもどこでも見れるうえ、保存も楽にできる。（20代）

- ・pdf をメールで送ってもらえばよい。HP からの閲覧は住所など個人情報があるため控えてほしい
(40 代)
- ・プライバシーの問題等があると思うが、電子版にさせていただき、バックナンバーにいつでもアクセスできるようになるといいと思います。(20 代)
- ・メールで PDF 配信で読めるととても嬉しいです。他に所属している同窓会関係の会報もほとんど電子化されています。移動時間や子どもの寝かしつけ中の多少暗い場所でも読めるので重宝しています。(30 代)
- ・紙の無駄。メールでの PDF 配信にすべき。PDF をパスワード付きでウェブ閲覧できるようにすべき。
(30 代)
- ・Web 上で会員限定でバックナンバー含めて自由に閲覧できる状態が好ましいと感じる (20 代)
- ・"印刷も負担かと拝察いたしますので、メール添付で十分かと存じます。個人情報が多く、処分に困ることが時々あります。" (20 代)
- ・PDF 化して暗号化およびパスワード付きにしてメール配信してはいかがでしょうか。ただし、HP 掲載は個人情報保護の観点からリスクが大きいと思います。(40 代)
- ・HP 上にてパスワード付きで pdf 公開し、都度、メールにて連絡する方が良いと思います。(50 代)
- ・"住所や職場などの詳細な個人情報が掲載されているため、廃棄の際に家庭のシュレッダーにかけており、とても手が掛かります。また、会費が郵送料や印刷代に使われることも、勿体なく感じています。電子化と、住所などの詳細な個人情報は掲載しない(会員名簿のみにのせ、会報には掲載しない)ことを検討していただきたいです。" (30 代)
- ・資源、郵送費用、人件費削減のために、ホームページやメールでの配信でいいと思います。会誌は住所などの個人情報が記載されており、毎回シュレッダーを掛けるのに手間がかかかりますし、全員がきちんとシュレッダー等で処理されているかも分かりませんので…。(30 代)
- ・個人宛には郵送ではなくメール配信でも良いと思うが、会全体としてもアーカイブがしっかりと残るように(例えば、サーバー保管のみならず、CD-ROM 等でのバックアップ)した方が良いと思う。(40 代)
- ・閲覧者からの反応や感想をダイレクトに受け付けるのであれば SNS がいい。(50 代)

⇒賛否が割れているが、過半数以上の方が「現状維持」を希望しており、結果を尊重する。ただし、電子化希望者や併用案の意見で検討課題となるものについて、広報委員会にて検討する。(保存や HP 内での閲覧など)

問 6 : 掲載内容や今後の改善

主な記載は以下の通り

- ・読み返しができるように過去の会誌を HP に掲載 : $151 / 265 = 57\%$

- ・新奨学生の自分の人生や日本・世界についての考えを述べてもらう：91/265 = 35%
 - ・前号記事への読者の声を掲載：66/265 = 25%
 - ・その他、奨学生、OBOG、卒業10年目の会員、経験豊富な会員、など多くの方に対談を含め登場いただく機会をつくる
- ⇒すくなくとも上記の3つの意見には多くの方が同意見であり、可能な限り対応すべく、広報委員会にて検討する。

問7：意見・要望

主な事項は以下の通り

- ・支部持ち回りによる「奨学生による大学生活」紹介
- ・会員間のコミュニケーション促進のための双方向性を持たせる
- ・支部報告は形式化している、テーマを決めて意見を述べてもらう
- ・社会的問題等に対する見解などの記事
- ・編集後記は興味深い
- ・会員同士をつなぐ呼びかけ欄（人材マッチング）

⇒意見要望には、可能な限り対応すべく、広報委員会にて検討する。